

様式例11 指定管理者制度活用事業 評価シート

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	かわさき新産業創造センター(KBIC)	評価対象年度	令和7年度
事業者名	事業者 かわさき新産業創造センター 共同事業体 ・公益財団法人 川崎市産業振興財団 ・バイオサイトキャピタル株式会社 ・株式会社ツクリエ ・三井物産フォーサイト株式会社 代表者名 代表団体 公益財団法人 川崎市産業振興財団 理事長 鈴木 毅 住所 川崎市幸区堀川町66-20	評価者	イノベーション推進部 スタートアップ支援・ 量子イノベーションパーク 推進担当課長
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日	所管課	経済労働局イノベーション推進部

2. 事業実績

利用実績	●入居率(面積比) 目標入居率 95.0% 結果入居率 96.9% 令和7年度の目標入居率は95.0%であったが、毎月の公募を通じて積極的な企業誘致及び成長支援に努めた結果、16件の利用申請(延長・増床含む)があり、入居率は96.9%と、目標値を上回った。
収支実績	【指定管理業務】 収入 ・指定管理料 3,668,816円 ・利用料金収入 348,098,788円 ・事業収入 941,000円 ・その他収入 85,024,438円 ・雑収入 231,000円 合計 437,964,042円 支出 ・人件費 142,411,151円 ・事業経費 44,280,351円 ・施設維持管理経費 87,718,245円 ・本社経費 13,894,626円 ・その他管理運営経費 126,314,958円 合計 414,619,331円 収支 23,344,711円 【自主事業等】 収入 0円 支出 10,100,444円 収支 -10,100,444円
サービス向上の取組	●経営支援業務 インキュベーションマネージャーやオープンイノベーションコーディネーターが、入居企業56社に対して経営支援を年間合計1,064件(R6:861件、R5:899件)行った。件数は前年度から約24%増となり、より協業に繋がりやすいマッチング支援は前年より約58%増(133件→210件)となった。また、人材支援や資金調達支援など、入居者の幅広いニーズに応じた成長支援業務を実施した。 ●ものづくり基盤技術の高度化促進業務 3DCAD講習や工作機械講習等、ものづくり基盤技術高度化講習会は、実施目標30講座に対し、33講座を実施した。技術コーディネーターが利用者に対し試作支援や機械操作方法の指導等を行う技術的支援については、年間で130件の個別支援を実施し、利用者の基盤技術の高度化を図った。また、収益還元として工房内の旋盤の機器更新を行い、利用者サービスの質及び安全性を向上させた。セミナー・シンポジウムについては、新川崎マッチング展2026において、「スタートアップと大企業の協業」という時流に沿ったテーマで、ソフトバンク㈱による講演会を実施し、70名が聴講した。また、エンジェル投資家・VCによる講演会も開催し、24名が参加するなど、注目度の高い企画を実施している。 ●施設利用者に対するサービス提供業務 令和7年度は、敷地内の看板及び室内案内サイン等の更新を行い、来訪者の視認性向上を図った。また、KBIC周辺に立地する障がい者施設や地域の農家と連携したパン等の販売回数を増加させることで、入居者の福利厚生の実現を図っている。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点	
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	10	3	6	
		利用者満足度は向上しているか				
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか				
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	10	4	8	
		当初の事業目的を達成することができたか				
	(評価の理由)					
	●利用者満足度 インキュベーションマネージャー等による入居者に対する経営相談等成長支援について、令和7年度は1,064件実施した。インキュベーションマネージャーの持つネットワークを活用した金融機関やベンチャーキャピタルの紹介、大企業とのビジネスマッチングや、事業計画に関する助言、補助金申請のサポート等、入居者のニーズに応じた支援を適切に行っている。 指定管理者が入居者から収集したアンケート結果によれば、90%の入居者が現状のインキュベーションマネージャー及び技術コーディネーターの支援に満足またはやや満足していると回答した(R6:96.7%)。また、やや不満・不満といった意見は一つもないことから、普段からの親身な対応の結果であると考えられ、評価できる。					
	●事業成果 ホームページでの発信に加え、CEATEC 2025をはじめとした川崎市の施策と親和性が高い展示会及びスタートアップ向けイベントでの誘致活動を行ったほか、共同事業体が保有するネットワークを通じて声がけを行い、その結果、年間で新規5件を含む13件の入居につなげ、目標の95%を上回る約97%の入居率を達成したことは評価できる。 入居企業の成長支援としては、入居企業の事業状況に応じたVC等を紹介することで、13社が総額85億円の資金を調達した(R6:11社 78億円、R5:13社 48億円)。また、入居企業同士を紹介することで5件の共同開発・事業連携につなげるとともに、関係機関のネットワークを活用し市内外の企業とのマッチング等を実施している。 技術的支援としては、施設の特徴であるものづくり工房等を活用した技術コーディネーターによる技術的支援を130件、工作機械講習会等を33回実施している。 一方で、退去（卒業）企業12社のうち市内に立地した企業は3社となり、市内立地率は25%と昨年度を下回っていることから（R6：6社中4社の市内立地、66%）、市内立地率の向上に向けたより一層の取組が求められる。					
	収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	7	4	5.6
			支出に見合う効果は得られているか			
効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか						
収入の確保		計画通りの収入が得られているか	7	4	5.6	
		収入増加のための具体的な取組が為されているか				
適切な金銭管理・会計手続		収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	6	3	3.6	
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
(評価の理由)						
●効率的・効果的な支出 共同プロジェクト創出やコミュニティ形成を目的としたイベントについては、航空宇宙、医療・ライフサイエンスのテーマで入居企業をPRする資金調達ピッチを開催した。また、大企業との個別提案・相談会等のイベントなども実施し、これらを合わせて目標どおり17回開催し、896名(R6:614名)が参加した。さらに、後日編集を施したアーカイブ映像を配信するなど、より多くの参加者を集める取組は評価できる。 KBICが築20年以上経過している点を考慮して計画的な施設修繕を行い、1,500万円の予算額に対して約1,297万円を執行し、故障や経年劣化等不具合への適切な対応等を行った。 また、収益還元事業の執行額は令和6年度の約755万円から約906万円と増額し、自主事業と併せて約1,000万円の執行となり、利益を施設の機能向上や入居企業の交流促進に繋がる事業等に活用している。 令和6年度と比較して入居率が微減した結果、利用料金収入や電気料金等の収入額が減少した。一方で、人件費やエリアブランディング業務経費、利益還元事業等の増により支出額が増加した結果、令和7年度の収支は約1,324万円の黒字となった。						
●収入の確保 入居率について、目標の95%を上回る96.9%となり、これに比例し、新事業事務室等の利用料金収入の決算額は予算額を上回る約3億4,810万円となった。イベントを含めたさまざまな誘致活動が収入の確保に繋がっている。						
●適切な金銭管理・会計手続 「かわさき新産業創造センターの管理運営に関する基本協定書」及び「指定管理業務仕様書」に基づき、あらかじめ川崎市の承認を得たうえで、必要な要綱等を整備し、適切に実施している。						

サービス向上及び業務改善

適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
	サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
	利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	10	4	8
	業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
	業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	10	3	6
	意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
	利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
(評価の理由)				
●適正なサービスの提供 目標以上の入居率を達成した上で、収益還元事業として、コーヒーを飲みながら気軽な交流を図るイベント「フライデーカフェ」を毎週金曜日に開催し、年間38回で延べ1,566名が参加した。昨年度から取組を開始したフライデーカフェは、年間を通じて継続的に開催することで入居者に認知されたイベントに成長し、顔の見える関係づくりの場となっているとともに、毎回入居企業1～2社による自社紹介プレゼンを実施することで、入居者同士の事業内容の相互理解を推進している。そのほか、ものづくり工房内の旋盤の買替えを実施するなど、施設の機能向上に繋がる取組を実施した。 IPO支援として事業内容や企業のステージに適した、金融機関やベンチャーキャピタル等を紹介し、13社の企業がベンチャーキャピタル等から合計で約85億円の出資を受けることに成功する等、成果を上げている。(R6:11社、78億円) 補助金申請に関する事務局への問合せや申請書記載内容のチェック・アドバイス等の競争的資金獲得の支援を行った結果、2社が採択されている。				
●業務改善によるサービス向上 インキュベーションマネージャーの支援をバックアップするメンターとして、入居企業の要望に応じて弁護士や公認会計士といった専門家に指導を依頼し、入居者支援の充実につなげている。 入居企業における従業員の国際化の進展を受け、交流イベントであるKBIC倶楽部において「グローバルフードフェス」と題して入居者の出身国の料理を提供するイベントを開催した。これにより、海外出身者を含む新たな入居者層の参加を促すとともに、入居者間のコミュニケーションを活性化し、オープンイノベーションの可能性の拡大につなげた点は評価できる。 新川崎・マッチング展は、戦略的な広報実施により、来場者数が231名(R6:154名)と1.5倍に増加し、マッチング機会の創出を促進した。 1年以上入居する中小企業等35社のうち、前年よりも雇用者数が増加した企業が19社(約54%)と、目標値の30%を上回った。また、新たに1社がポジティブなM&Aに成功するなど、成果指標に沿った成果が上がっている。				
●利用者の意見・要望への対応 入居者に対するアンケートを実施し、入居者のニーズ把握に努めている。アンケートに寄せられた意見や要望に対して回答を作成し、施設として適切に説明を行っている。 また、KBIC入居企業のニーズをより細かく把握するため「ご意見箱」を設置し、施設利用者がより気軽に常時要望を伝えられる仕組みを取り入れ、要望をもとに施設環境を改善している。令和7年度は利用者からの要望に基づき、共用スペースへの虫除け剤や、ゴミ捨て場への照明を設置するなど、入居者の利便性向上に向けた対応を行っている。 更に、これまでのアンケート結果に基づいて改善を図った会議室予約システムの導入や不在時宅配便預かりサービス等については、引き続きサービスの水準を保っており、利用者の視点に立った業務改善の取組は評価できる。				

組織管理体制

適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか			
連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか	3	3	1.8
再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	3	3	1.8
安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	3	3	1.8
	緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	3	3	1.8
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか			
環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	3	3	1.8
市内中小企業の活用	(指定管理者の選定時に下記を行うことを理由に加点した場合又は下記を行うことを仕様書等に定めている場合に設定)実際の運営における業務の一部委託において市内中小企業者を再委託者として選定しているか	-	-	-
障害者雇用	(指定管理者の選定時に下記を行うことを理由に加点した場合又は下記を行うことを仕様書等に定めている場合に設定)当該施設における障害者雇用や、法定雇用率を超える障害者雇用など、積極的な障害者雇用が行われているか	-	-	-
(評価の理由) ●適正な人員配置、連絡・連携体制 事業計画に基づき、利用料金徴収業務等を行う総務スタッフ、入居者の成長支援のためのインキュベーションマネージャーやオープンイノベーションコーディネーター、クリーンルームを始めとした施設の管理保守に必要な専門的知識を有する設備管理スタッフ等を配置し、安定的に業務を遂行している。 入居率が高く相談件数が増えている中で、中小企業診断士の資格を有する人材を配置するなど、入居企業の成長支援にも注力している。 所管課と月例の全体会議や隔週のオープンイノベーションに関する打合せ、随時の連絡において、入居企業や施設管理等の状況について情報共有するとともに、緊急連絡網を整備し、休日夜間であっても所管課と連絡が取れる体制を整えている。 ●再委託管理 再委託業者に対して、適切な調整が図られている。特に、飲食・物販スペースについては、アンケート結果を再委託業者と共有し、昨今の原材料高騰の状況下でも価格を据え置くとともに、多彩な週替わりメニューを数量限定で提供するなど工夫している。また、入居者のニーズに応じて電子マネー決済を導入したことで、会計時の待ち時間短縮等の効果をもたらし、利用者満足度向上に資する取組を行っている。 ●担当者のスキルアップ、安全安心への取組、コンプライアンス遵守・職員の労働条件・労働環境 AEDは、KBIC本館・NANOBIC各棟に1台(計2台)配備し日常点検及び月例点検を実施しており、また、救命講習を受けた職員を配置し、入居企業等を対象とした救命講習も行っている。 コンプライアンス遵守については、令和6年度にメールの誤送信を発生させたことを受け、職員研修を実施するとともにメーリングリストを活用したほか、メールの一斉送信時には管理者によるダブルチェックを実施することで再発防止に取り組んだ結果、コンプライアンス上の問題は発生しなかった。また、川崎市産業振興財団が実施した情報セキュリティ研修にKBIC管理部職員が参加し、情報管理体制の強化を図った。職員の労働条件・労働環境については、KBIC本館、NANOBICにそれぞれ執務室を確保し、適切な労働環境を確保している。 ●環境負荷の軽減 最適な明るさ、照度となるような照明の管理、共用部のエアコン設定温度の緩和等、エコ活動を実施した。				

適正な業務実施

施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	8	4	6.4
管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか	7	3	4.2
外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
(評価の理由) ●設備・施設の保守管理、管理記録の整備・保管、清掃業務 アンケート調査では「設備・保守・衛生」に対して満足・やや満足と回答した割合は約86%と昨年度の79%から増加しており、利用者から高い評価を得ている。 日常・定期点検業務を基に更新・修繕が必要な箇所を速やかに判断し、必要な箇所の修繕を実施することで、入居企業の研究開発業務に支障をきたすことなく、施設の保全状態を良好に保っている。また、高度な管理が要求されるクリーンルームの管理にも適切に対応している。 清掃業務については、再委託により適切な清掃を実施するとともに、三井物産フォーサイト・クリーンサポート部の有資格者インスペクターによる清掃インスペクションを実施し、その実施報告書に基づき指摘事項の改善を行うことで、館内の美観を維持している。 ●警備業務、外構・植栽管理、備品管理 夜間警備員の報告について、一定時間を設け、確実に引継ぎを行うとともに、警備会社への再委託を行い、警備体制を拡充する等、適切な警備業務を行っている。				

4. その他加点

分類	項目	着眼点			評価点
その他 加 点	市の政策課題への取組	例) 第三者へ一部の業務委託を行う際、市内中小企業者の受注機会の確保・拡大 地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力 市制100周年に向けた取組 障害者の法定雇用率を越える雇用 など			-
	(評価の理由)				

5. 総合評価

評価点合計	70.4	評価ランク	B
-------	------	-------	---

※評価ランクの適用基準

評価ランク	適用基準（評価点合計）
A	総合評価の結果、特に優れていると認められる。（80点以上）
B	総合評価の結果、優れていると認められる。（70点以上80点未満）
C	総合評価の結果、適正であると認められる。（60点以上70点未満） ※標準点
D	総合評価の結果、改善が必要であると認められる。（50点以上60点未満）
E	総合評価の結果、問題があり適切な措置を講じる必要がある。（50点未満）

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・個人による創業及び企業の新たな事業分野への進出支援による新産業の創造を促進するという、当該施設の設置目的を踏まえ、入居希望者に対するヒアリング会を実施するとともに、入居者に対し、販路開拓、資金調達、マッチング等についての適切なサポートを行い、経営・成長支援に資する事業を積極的に行っている。当該経営相談は、令和7年度は入居企業56者に対して1,064件の実績と引き続き高い水準にあり、入居者から信頼されていることがうかがえ、評価できる。 ・ビジネスマッチングの取組として、分野別のオンライン資金調達ピッチイベントや、大企業に向けた個別提案会、新川崎マッチング展など、多様な形式のイベントを開催するとともに、入居企業等の交流を促す新たな取組としてグローバルフードフェスを開催するなど、オープンイノベーションに繋がるイベントを積極的に実施しており、評価できる。 ・また、収益還元事業として工房内の工作機器の買替えや、年間を通じたフライデーカフェの開催など、施設の機能向上や入居者の交流促進等の取組を実施した点は評価できる。 ・施設全体の入居率について、年間を通じて90%を下回る月はなく、平均入居率は目標値の95%を上回る96.9%となっており、リーシングにおいて成果を挙げている。 ・施設の管理については、予算額に近い修繕費を執行するとともに、クリーンルームなど高度な管理が求められる本施設の状況を踏まえ、専門的知識を有する適切な人員を配置し、清掃業務や各種点検業務等、施設の適切な保守のための業務を確実に行っている。 ・協定期間の3年目の取組として、ハード・ソフト両面において概ね適切な運営が実施されている。

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・新規入居者向けの空室が少ない状況にある中、リーシング業務については、既存入居企業の増床対応にとどまらず、市が重点的に集積を図る分野を対象とした展示会への訪問等を通じて有望な企業の発掘・誘致に積極的に取り組むとともに、蓄積されたノウハウやネットワークを活用し、IP0や市内への成長移転等の成果が生まれるよう、引き続き入居企業支援の強化を行うこと。 ・施設の維持管理については、引き続き予算に基づく年間計画を策定し、計画的に修繕工事を実施することを通じて、適切な保守管理や予防保全を実施すること。 ・オープンイノベーションの推進や施設及び新川崎のブランディングについては、指定管理者が事務局業務を行う新川崎地区ネットワーク協議会と連携するとともに、共同事業体それぞれの知見・ノウハウを最大限に発揮し、新川崎エリアの発展にも資する事業を実施すること。 ・退居（卒業）企業の市内立地率を高めるため、市内の民間ラボ等に移転できるよう事業拡大に向けた成長支援を行うとともに、許可期限を見据えた早期のヒアリングや、不動産会社をはじめ関係機関等と連携した物件紹介を行うなど、市内立地の促進に向けた総合的な支援を実施すること。 ・引き続き定期的なアンケートの実施や意見箱の活用等を通じて、ニーズを適切に把握し、入居者の満足度をより高められるような取組を継続して実施すること。 ・収支については、令和8年度についても安定した収入が確保できる場合には、所管課と協議のうえ、施設等のハード面や入居企業の成長支援等のソフト面の強化を図るなど、収益還元業務を実施すること。
